

# まちを動かす ひとと夢とこころ

60

## 伝統ある大竹の手すき和紙を 守り残していきたい

「輝く人」とは、夢のため、人のため、地域のため、一つのことを打ち込んで頑張っている人。それぞれ目的は違えど、その活動は、より良いまちづくりへとつながっています。「輝く人」の輝きを多くの方にも知ってもらいたい、その思いが「輝く人」シリーズの原点です。



### 広島県和紙商会

### 大石 雅子 さん (元町4 81歳)

市内唯一の手描き鯉のぼりの描き手。  
鯉のぼりを描き続けて50年。

### 私

は、昭和27年に大竹に嫁ぎ、手すき和紙商工業協同組合の事務所で働いていました。昭和39年に、手すき和紙の鯉のぼりを作っていた理事長が亡くなられ、それから私が後を継ぐことになりました。物が作ったり、絵を描くことが好きだったので「私ならできる」と思ったんです。

一時は、5〜7mの鯉のぼりを1年間に約2、000匹作っていました。百貨店にも卸していたんですよ。時代の流れとともに、鯉のぼりを空に泳がす家が次第に少なくなってきました。そこで、家の中でも飾れるようにと、1・2mと1・5mの鯉のぼりを考えました。全国から毎年約120匹の注文が入ります。昔のように、子どもの成長を願って、鯉のぼりを飾る家が増えてほしいと思います。

私のこだわりは「大竹の和紙」を使うこと。手すき和紙商工業協同組合で働いていた頃は、手すき和紙を作る家が大竹市内に何軒もありましたが、現在は手すき和紙保存会しか作られていません。「伝統ある大竹の手すき和紙を絶やしたくない」この思いが、鯉のぼりづくりを頑張る源になっています。近年、和紙を使った製品が減ってきています。私が鯉のぼりを作り、手すき和紙と共に、守り残していきたいと思っています。